

日本医学会創立120周年記念誌429頁に20年の歴史の概要を掲載



V 日本医学会138分科会の歴史

公益社団法人
日本臨床腫瘍学会
Japanese Society of Medical Oncology

◆設立：1993(平成5)年8月6日 ◆日本医学会加盟年：2009(平成21)年 ◆代表者：石岡千加史
◆会員数：9,176人(2021年4月1日現在) ◆機関誌：Annals of Oncology ◆URL：https://www.jsmo.or.jp/

▶前身
日本臨床腫瘍学会の前身である日本臨床腫瘍研究会は、1993(平成5)年8月に有吉 寛、西條長宏、福岡正博(3名が発起時の代表幹事)らの発起により、メディカルオンコロジー的手法で行う臨床腫瘍研究を科学的かつ倫理的に行う目的で、第一線の研究者がそれぞれの研究を報告し、率直かつ厳しい討論を行う場として設立された。1993(平成5)年8月～2002(平成14)年3月まで第1～15回研究会(歴代代表世話人は有吉 寛、西條長宏、福岡正博、吉田茂昭、井上勝一、上田龍三、鶴尾 隆、河原正明、渡辺 亨、大橋靖雄、大野竜三、原 信之、新津洋司郎、佐々木康綱、曾根三郎)が開催された。

▶学会設立から公益社団法人化まで
日本臨床腫瘍研究会は2002(平成14)年3月1日に改称され日本臨床腫瘍学会が設立された。設立時、当学会の実践すべきこととしてトランスレーショナルリサーチの推進、医師主導の臨床研究の倫理的、科学的な進行、がん化学療法専門医の育成、がん緩和医療を理解したメディカルオンコロジストの育成、大学に臨床腫瘍学講座の設立と大学附属病院に臨床研究が実践できる診療科の構築が掲げられた。

2003(平成15)年2月に第1回総会(初代会長は桑野信彦)が開催された。

2004(平成16)年12月の理事会で会則を定め初代理事長に西條長宏(国立がんセンター)が就任した。

同年3月～2009(平成21)年3月に、第2～4回総会(歴代会長は高橋成光、堀田知光、福岡正博)、第5～7回学術集会(歴代会長は新津洋司郎、原田実根、直江知樹)が開催された。

2005(平成17)年4月に特定非営利活動法人日本臨床腫瘍学会へ移行した。

2006(平成18)年4月に第1回がん薬物療法専門医を47人認定した。

2008(平成20)年1月から『Annals of Oncology』を会誌とした。

2009(平成21)年2月に日本医学会に加盟した。

2009年4月に田村和夫(福岡大学)が第2代理事長に就任した。

2010(平成22)年3月～2013(平成25)年8月まで、第8～11回学術集会(歴代会長は、品 清彦、大津 敦、中川和彦、石岡千加史)が開催された。

2013(平成25)年8月に大江裕一郎(国立がん研究センター)が第3代理事長に就任した。

2014(平成26)年7月に第12回学術集会(会長は田村和夫)が開催された。

▶公益社団法人化から現在まで
2015(平成27)年6月に公益社団法人日本臨床腫瘍学会へ移行した。

同年7月～2017(平成29)年2月に、第13～15回学術集会(歴代会長は秋田弘俊、南 博信、谷本晋吉)が開催された。

2017(平成29)年7月に南 博信(神戸大学)が第4代理事長に就任した。

2018(平成30)年6月に、がん薬物療法専門医が日本専門医機構認定のサブスペシャリティ領域専門医として承認された。

同年7月と翌年7月に、第16、17回学術集会(歴代会長は中西洋一、藤原康弘)が開催された。

2019(令和元)年7月に石岡千加史(東北大学)が第5代理事長に就任した。

2021(令和3)年3月と2022(令和4)年2月に、第18、19回学術集会(歴代会長は西尾和人、大江裕一郎)が開催された。

▶現在
日本臨床腫瘍学会は、臨床腫瘍学を幅広く探求する学術団体である。がん治療学、特にがん薬物療法を学術領域の中心に据える。主なミッションはがん診療の普及、臨床腫瘍学に関する教育、がん研究の推進、腫瘍内科医を含む臨床腫瘍学の専門家の養成、がんに関する正確な情報の提供、臨床腫瘍学に関する国際的な連携の推進である。これらのミッションの実現のために、(1)年次学術集会、医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー、がん免疫療法マネジメントセミナー、がんゲノム医療コーディネーター研修会、地方での地区セミナー、Best of ASCO in Japan、教育セミナーAおよびBセッション、市民公開講座などの定期開催、(2)専門家の養成のためにがん薬物療法専門医資格認定および更新試験の毎年実施、(3)教科書(新臨床腫瘍学と入門腫瘍内科学)や各種がん診療ガイドライン[がん免疫療法ガイドライン、原発不明がん診療ガイドライン、腫瘍前症候群(TLS)診療ガイドライン、頭頸部がん薬物療法ガイドライン、大腸がん診療における遺伝子関連検査等のガイドライン、骨転移診療ガイドライン]などの定期刊行・改訂、(4)日本癌学会と日本癌治療学会などの国内学会、欧州腫瘍内科学会(ESMO)、米国臨床腫瘍学会(ASCO)、およびアジア・オセアニアのがん関連学会との連携によるガイドラインの共同策定や学術交流等の事業を行っている。当学会はESMO、ASCOならぶアジアのメディカルオンコロジーの中心学会になることを目指している。

429

A summary of the 20-year history was published on page 429 of the 120th Anniversary Commemorative Journal of the Japanese Association of Medical Sciences (JAMS).